

滝ノ拝

滝ノ拝は古座川の支流である小川にある、200m に及ぶくぼみだらけ岩床を切るように流れる小さくも力強い滝です。

何百年も昔、砂岩と泥岩の河床は浅い海に覆われていました。地下のマグマ溜まりがこれを温め、熱が取れた時には磁器のように固く脆くなりました。流れによって石が転がり、徐々に侵食することでくぼみができました。地元の伝説では、滝ノ拝太郎という侍が刀でくぼみを掘っていたところ、滝に刀を落としてしまい、取りに行きますが彼も滝の中に消えてしまいました。地元の言い伝えの中には、太郎が戻ったというものもあれば、二度と戻らなかったというものもあります。

8 月下旬にはボウズハゼが口とヒレを吸盤にして餌となる藻類を求めて岩を登ります。滝の傍には、船乗りを守る神道の神を祀った、苔に覆われた金比羅神社が建っています。